

保 健 体 育 科 学 習 指 導 案

学 級 2年C組 (女子 15名)

授業者 菅原和枝

1 単元名 球技 ベースボール型 (ソフトボール)

2 単元について

(1) 教材観

ソフトボールは、「打つ、投げる、捕る、走る」といった運動の基本的要素の組み合わせで構成されている運動であり、ゲームや練習を通して集団技能や個人技能を高めるとともに、体力や運動能力の向上を図ることができる運動である。また、2つのチームが攻撃側と守備側に分かれ、攻撃側は打撃・走塁で、守備側は投球・捕球などで攻防し、規定の回数内で得点を競い合う集団スポーツでもあり、ボールをバットで思い切り打ったり、打球をうまく捕球して打者や走者をアウトにしたりして勝敗を争うところに楽しさがある。

さらに、個々の状況に応じて互いに協力しながら練習やゲームを通し、助け合ったり、教えあったりすることで、チームの課題が解決でき仲間とのつながりを高めることができる運動でもある。

(2) 生徒観

体育の授業に対しては、反応も良く楽しんで活動する生徒が多いが、中には控えめで声がけしないと動けない生徒もいる。また、やる気があってもできないとはじめから限界をつくってしまう傾向もあり、受け身的な活動もみられる。運動を得意とする生徒とそうでない生徒との差もある。

これらの状況を改善するためにこれまでの授業では、チームでの協力と連携にポイントをおいて学習を進めてきた。1学期の「バレーボール」では、チームでの動きを話し合い、考える時間を確保し確認しながら学習を進めた。その結果チームで声をかけ合い連携プレーが少しずつではあるができるようになってきた。

本単元における事前調査では、「ソフトボールをやったことがある」は34%であった。ルールについても66%が知らないと答えた。しかし、やったことがないが楽しそうと感じている生徒も多い。どんな時が楽しそうかとの質問には、「打ったとき」「ゲームで勝ったとき」が多数であった。また、守れるようになりたいと考えている生徒も多いことから、守備に課題を感じている生徒が多いと考える。

(3) 指導観

初めてソフトボールに取り組む生徒が多く、キャッチボールやバッティングなどの経験の差を考慮し、2年生では基礎技能を習得することを中心に学習を進めたいと考えた。前半は、チーム人数を少なくし、ボールに触れる回数を増やす。後半は、チームとしての作戦を取り入れ、ルールを簡易化したゲームをなどを行い、ソフトボールの本来の楽しさを味わいながらメインゲームに発展していけるようにする。また、段階的な指導により、ルールや戦術も理解させていきたい。

動いているボールを打つ、ストライクを投げることに対して難しさを感じており、ゲームが間延びすることも予想されるので、今回はティーボール形式で行わせたいと考えた。打つことが楽しそうと感じている生徒が多く、打つことから走塁、守備などに発展していくように指導していきたい。さらに、学習段階に応じて書くことを意識して練習方法や作戦などを考え、チームで自分の役割や協力する態度も身につけさせたい。

3 単元の目標

- (1) 基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備によって攻防を展開することができる。 【運動の技能】
- (2) 積極的に取り組むとともに、フェアプレイを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、自己の責任を果たそうとすること、作戦などについて話し合いに参加しようとするなどや健康安全に気を配ろうとしている。 【運動への関心・意欲・態度】
- (3) チームや自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。 【運動についての思考・判断】
- (4) ソフトボールの特性や成り立ち、技術の名称やゲームの行い方、関連して高まる体力、試合の行い方を理解している。 【運動についての知識・理解】

4 単元の指導計画と評価規準 (10時間扱い 本時4/10)

時		学 習 内 容	書く活動	評 価 規 準	
1	基礎的	オリエンテーション	・チームや役割分担決め ・ルール・マナーの確認 ・学習の進め方の説明	学習カードにまとめを書く	(関) 自己や仲間の安全に留意している。 (知) ソフトボールの特性、学習の進め方やねらいを理解している。
2	な	・バット操作	・ワンベースゲーム 捕球しホームに送球	学習カードにまとめを書く	(技) 基本的なバット操作ができる。 (技) 打球や送球に備えて捕球しやすい位置に動くことができる。
3	技能簡易	・ボール操作	・三角ベース 得点ゲーム (攻撃)		(思) 技術を身につけるための運動の行い方のポイントを見つけている。
4	ゲーム		・三角ベース 得点ゲーム (守備)	記録用紙に書く	(関) 仲間同士アドバイスしながら学習に取り組もうとしている。
6	簡易	ケース練習	・チーム練習 → ゲーム 1班 攻撃 2班、3班 守備	学習カードに練習方法とまとめを書く	(技) ゴロやフライを捕ったり、ねらった方向にボールを投げたり、味方の送球をポジションに応じて受けたりできる。 (技) 次の塁をねらって、全力で塁を駆け抜けたり、打球の状況によって止まったりできる。
7	ゲーム	簡易ゲーム	・ランナー1塁から開始 ・ランナー2塁から開始		(関) 仲間の意見を聞き、自分の考えを述べるなど積極的に話し合いに参加している。 (思) 個人・チームの状況に応じた練習方法を選んでいる。
8	か学	リーグ戦	・チーム練習 ・作戦 ・ゲーム 打者一巡 時間制 アウト制	学習カードに練習方法、作戦、まとめを書く	(技) ポジションに応じた守備隊形、準備姿勢をとることができる。
9	ただ				(思) 自己とチームの課題をみつけている。
10	ゲ技				(関) 仲間のプレイを認め、お互いを尊重し練習やゲームに取り組もうとしている。
	ムをい				(知) 技術や作戦の名称やその具体的な行い方がわかる。

5 本時の指導

(1) 目標 基本的なバット操作ができる。

(2) 具体の評価規準

評価の観点	評価規準	支援を要する生徒への手立て
運動への関心・意欲・態度	仲間同士アドバイスをしながら学習に取り組もうとしている。	具体的な事例をあげ、声をかけるように指示する。
運動の技能	地面と水平になるようにバットを振り抜くことができる。	水平ロープを使って、スイング練習をさせる。

(3) 本時の展開

段階	学習内容	生徒の学習活動	留意点(●評価の場面と方法)(□書く活動)
導入	1、整列・挨拶・健康観察	・整列し健康観察をする。	・生徒の健康状態を確認する。
10分	2、準備運動	・チーム毎に準備体操、補強スキル練習を行う。	・チーム毎に協力し、リーダーを中心に準備運動をさせる。時間と運動量を考慮する。
	3、学習課題確認	・本時の目標を確認する。	・前時を振り返り本時のポイントを提示する。
アドバイスしあいながら、基本的なバッティングフォームを身につけよう			
展開	4、チーム練習 ・バッティング ・守備練習(捕球、送球)	・5本打ったら交代 ・攻守(ポジション)をローテーションしながら練習をする。	・打つ時のポイントを確認し、ロープを利用して行わせる。 ・交代をスムーズに行えるよう順番を指示する。 ●【関・意・態】 仲間にアドバイスしようとする 仲間の学習を援助しようとする ・打撃をゲーム、点数化することで学習意欲を喚起させる。 ・1塁で1点、2塁で2点、ホームで3点とする。 ・攻撃と守備のルールを確認する。 ・打球と走者の状況をみて間に合う塁を声に出し、指示し合うようにさせる。
35分	5、簡易ゲーム ・三角ベース	・1班→攻撃、2班→守備 3班→審判・記録 ・打者2巡でローテーションする。	●【技能】 水平に振り抜くことができる。(観察・記録用紙)
まとめ	6、本時のまとめ	・学習の振り返りを行い学習カードに記入する。	□記録用紙を参考に、感想、できたこと、課題点などを記入させる。(学習カード)
5分	7、次回の確認 8、整理運動 挨拶・片付け		

(4) 板書計画

学習課題	アドバイスしあいながら、基本的なバッティングフォームを身につけよう	・握り方 ・構え方 ★振り方	(図)
まとめ			